
トイレに行きたい男～行列編～

灯宮義流

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

トイレにいきたい男〜行列編〜

【コード】

N5044D

【作者名】

灯宮義流

【あらすじ】

どうしても我慢出来ないそんな時。トイレっていうのは混んでたり使用中だったりするものです。

俺はトイレに行きたかった。トイレに急ぐってことは、もう要件は一つだけだ。

これ以上は下品だから皆まで言わないが、とにかく今俺は、かなり大変な状況なんだ。

詳しいことは後で話すが、とにかく今の俺は、一秒でも早くトイレに行きたかった。

ハッキリ言おう。も、漏れる!!!

ああ、ようやくあつたぞトイレが。公園の奥って以外と穴場だけど、ちょっと汚いなあ、見た目が。

だけれどここは我慢しよう。世間体を失うのと、潔癖を我慢するのどっちが大事かは、まあ即答だ。

……って、どうしてこんなに並んでるんだよ?!

「すいませーん。まだですかー?」

「あの……並んでるんですか?」

「そうだよ、全くさつきから出てこなくてさ」

「本当ですか? あーもう、急がなくちゃいけないのに」

「こつちだつて急がなくちゃいけないんだよ。自分都合ばかり言うな」

そんなことを言ってくるから、カチンときた俺は言ってやった。

「なんでですつて?! 見てくださいよこの姿を。さつき私妻に浮気がバレて頭に包丁が刺さってるんですよ」

「ああ、見ればわかるよ。そんなことは」

「もう本当だつたら死んでるんですけど、最後の心残りとして、どうしてもこの腹痛をどうにかしたいんです。だから早く!!」

「それを言ったらお前。これを見る!!」

男の人は、着ていたコートを少し剥がして、自分の胸部を僕に見せた。

「通り魔に拳銃で撃たれて、心臓貫通で即死さ！」

「そ、それは災難でしたね」

「でも、俺どうしても、どうしても！ トイレで、身体に残った不純なものを全部出してから行きたいんだ！！」

「そっちだつて自分の都合でしょうが！！ もう早くしてくれよー
ー！！」

「全くですよね！！」

二つ前の人が俺達に話しかけてきた。その人は身体が中に浮いていた。というか足がなかった。

「僕なんて、腹切り婆つてお化けに偶然あつちやつて、上半身と下半身切断されちゃったんつすよ。もうこれは運が悪かったとあの世で頑張つてくるしかないんですけど……その前にね、この便秘を解消してからいきたいんです！」

「はあ。ところで、あなた下半身は？」

「それがお恥ずかしいことに、へへッ……どこかで落としてきてしまったんですよ……どなたか下半身貸してくれませんか？」

「「さつさと探してこいよ！！」」

バキーー！！ と俺達二人でソイツをぶん殴つて、遠くの方へと吹き飛ばしてやった。よしっ、これでライバルが一人減ったぞ。

「うるせえなあ、漏れちゃうだろ！」

「す、すいません。あなたも待つてるんですか？」

「ああ。バイクで事故つて首がすっ飛んじやつてさ。おまけに子ども轢き殺したから地獄行きだつて。散々な話だろ？」

「そうですね……」

「で、潔く地獄にいつてやろうかと思つたら、このガキが『お腹イタイ、漏れるー』とか言い始めるから、責任とつて俺が連れてけつて話になって……なあまだかー？！」

世の中は広いなあ。他人のためこうやって必死こいてる奴もいる

のかあ。

なんて関心しているうちに、お腹がグルグルと鳴り始めた。この野郎……機能が停止している癖にいつちよ前に俺を苦しめるつもりか。

他の方々も同じなようだ。っていうかさっきの首なしライダーさんまでお腹を抑えはじめてる。おいおい、簡便してくれよ。

俺達のイライラと焦燥が募る中、ふいにまた一人、後ろに並んでくる奴がやってきた。これはまた運が悪いのがきたな。

相当急いでいたのか、俺以上にゼエハアゼエハアと、呼吸に落ち着きがない。

「あなたも？」

「ええ、もう時間がないっていうのに！」

「俺達だってさっきからずっと我慢してるんですよ！」

「そうだそうだ。お前一人じゃないんだぞ」

「ガキだって我慢してるんだ！！ お前少しは耐えるよ！」

「いやあ、そう言われましても……」

後ろにやってきた人は、ふいに自分の腹巻を俺等に見せ付けた。

「俺、爆弾マニアの彼女に時限爆弾仕掛けられちゃって、いつそ死ぬなら誰か巻き添えにしてやろうと思ったんですけど、昨日食ったパンに当たっちゃって。だから死ぬ前に一つスッキリさせていこうかなーと」

「そうだったんですか。ひどい女ですね、どいつもこいつも」

「しかし爆弾とはまたすごいですね。あと爆発までどれくらいですか？」

「ああヤベエ。もう時間じゃん」

「全く、外が随分騒がしかったなあ」

トイレに入っていた男は、ようやく一通りのことを済まして、トイレから出てきました。

外には、たくさんの死体が転がっていました。それを見た男の人は、あまりのショックを受けて心臓麻痺を起こし、その場で死亡しました。

また一つ、死体がゴロンと増えました。

「うっ。こりゃヒデエ」

「新手の自爆テロか自殺サークルですかね？」

「あるいは連続殺人かもしれない。念入りに調べよ」

「はい！ にしても、爆死かと思ったら、全員違う原因で死んでるみたいですね」

「それだけじゃないぞ。ここから1kmくらい離れたところになって、上半身と下半身の分かれた死体が吹き飛んでたからな」

「これは……自殺というよりやはり連続殺人でしょうか……ところで警部？」

「なんだね」

「トイレに行つていいですか？」

「ダメ、俺が先」

「職権乱用はやめてください。警部、我慢できないんです俺」

「うるさい。俺は痔もちなんだ。我慢していると身体に毒なんだよ！ 刑事と警部が睨み合う中、鑑識のひとがまたやってきました。

「鑑識はいりませう」

「ああ、ご苦労」

そうして鑑識の人は、トイレの中に入ってきました。耳を塞ぎた

トイレにいきたい男～行列編～

「くなる様な嫌な音が聞こえてきました。
あ、メモエー……！」

トイレにいきたい男～行列編～

(後書き)

明らかにスピリットサッカーのノリを引き継いでしまった作品。
これは駄目。次はもっと落ち着いた奴にします。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5044d/>

トイレにいきたい男～行列編～

2009年3月24日10時35分発行